

第4号様式

指定管理業務評価表

	施設名	富士見市立放課後児童クラブ	令和7年度	事業報告	
	指定管理者名	社会福祉法人 富士見市社会福祉事業団			
	指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	子ども未来部 保育課	

自己評価…指定管理者 所管評価…市(施設所管課)

1業務の実施体制	個別評価項目	確認基準	自己評価	所管評価	施設所管課評価意見	
	人員体制	事業計画書どおりの人員を配置している。	A	A		
		必要な資格や経験を有する人員が配置されている。	A	A		
		責任者(代理する者)が施設に常駐している。	A	A		
	職員の対応等	仕事内容を十分に把握し、利用許可や施設案内等を迅速かつ適正に行っている。	A	A		
		名札を着用し、業務遂行にふさわしい服装となっている。	A	A		
		利用者の要望や苦情等に対して適切に対応している。	AA	A	水準どおりのため、A評価とする。	
		言葉遣い、態度などの接遇は適切である。	AA	A	水準どおりのため、A評価とする。	
		事業計画に即し、職員研修を計画的に実施している。	AA	A	水準どおりのため、A評価とする。	
	法令等遵守	法令、条例等に基づき管理運営を行っている。	A	A		
個人情報保護	個人情報保護に関する規程が整備され、個人情報の漏洩、滅失等の対策を講じている。基本協定書の個人情報取扱特記事項を遵守している。	A	A			
情報公開	情報公開に関する規程が整備され、適切に対応できる。	A	A			
報告書の提出	定期報告書、事業報告書を期限内に提出している。	A	A			
2業務の内容・水準	安全、緊急対策	事故・災害等緊急時のマニュアルがあり、訓練が実施され、連絡体制や対応体制ができている。また、事故等があった場合、適切な対応が行われ、報告が市にされている。	A	A		
		事故防止及び安全確保(避難通路の確保等)のために施設や設備の目視や点検を行い、常に施設や設備の状況を把握している。	A	A		
		条例等の規定に基づき開館日、開館時間を遵守している。	A	A		
		外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	A	A		
		仕様書等に従い、清掃、整備、衛生管理を適切に行い、利用者が施設を快適に利用できる環境となっている。	A	A		
	維持管理	仕様書等に従い、施設・設備の保守管理を適切に行い、利用者が安全・快適に施設を利用できている。	A	A		
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理し、利用者が快適に利用できているか。	A	A		
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A		
		事業運営	事業計画書に即し、自主事業を実施している。	AA	A	水準どおりのため、A評価とする。
			事業内容が利用者サービスの向上に寄与している。	AA	A	水準どおりのため、A評価とする。
地域や他施設との連携に努めている。	AA		A	水準どおりのため、A評価とする。		
利用者アンケート	利用者の要望等の把握方法は適切である。	A	A			
	要望等の対応策は適切である。	A	A			
	利用状況	利用者数、稼働率等は、適正な水準にある。	A	A		
	管理記録	業務日誌を適切に整備、保管している。	A	A		
点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。		A	A			
環境配慮	省エネ、ゴミの抑制、リサイクルの推進に努めている。	A	A			
	3収支等	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	A	A	
		収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は適正である。	A	A	
経費縮減		経費が縮減され、又はその縮減に向けた努力を行っている。	A	A		
総合評価			A	A		
成果・課題等	(自己評価) 例年にも増して入室児童数が定員を大きく上回る過密状態が加速しています。体育館や特別教室の借用など小学校のご協力も頂きながらスペースの確保に努めてきましたが、専用施設ではないため時間や空間の点から、放課後児童クラブの本来の役割を果たしきれない現状があります。そのような状況下においても、まずは安全確保と、子どもたちの「やりがい」という願いを実現させるにはどうしたらよいか模索する毎日でした。 職員の資質向上を目的に外部研修への積極的な参加に加えて、職員組織運営の各委員会が企画する自主学習(研修)を体系的に準備・実施しました。今年度は特に「子どもの権利」について繰り返し学習し「運営指針」の精神を身に付けるとともに、CAPワークショップ(子どもへの暴力防止プログラム)を受講することにより、子どもの最善の利益を守るためには?と常に問いかけられるよう実践的に学びました。また、新規に倫理規範ハンドブックを作成し、昨年度は2回だった自身の対応の振り返りを毎月行えるよう新しくセルフチェックシートを導入しました。保護者からご意見をいただいた際は真摯に受け止め、改善することで、職員の対応に関して利用者アンケートでも高評価をいただいています。 小学校との日常的な情報共有はもとより、2小学校では「学校長との懇談」を定期的(月1回)に実施して頂きました。各小学校の学校運営支援者協議会や富士見市いじめ問題対策連絡協議会に委員を派遣し、地域子ども教室にも継続的に参加協力しています。 長年積み上げてきた関係機関との緊密な連携に加えて、今年度は新たにみずほ学園との合同研修を実現させました。「配慮を必要とする児童の対応」において、富士見市保育課・障がい福祉課との懇談(年2回)や富士見市教育相談室との懇談(アドバイス)、「配慮を必要とする世帯」に関しては子ども未来応援センター等との情報共有、ケース会議への参加等、さまざまな関係機関との連携を図りました。外国籍の世帯も増え、翻訳機を駆使しながら異文化コミュニケーションも進めました。子どもたちの日々の生活を、家族が暮らす地域まるごとで見守るというスタンスが子ども自身に実感されるとき、安心感と自己肯定感のびやかに育まれると願ってやみません。 日常における遊び文化を土台に、季節を彩る行事や地域向けのおまつり、子どもたち自身が企画準備する学年行事、さよならの卒室行事など、子どもたちが期待と楽しみを抱けるようなイベントを実施してきました。手づくりのおやつ・お昼づくりも子どもたちにとって大きな楽しみのひとつであり、クラブごとに食品衛生責任者を置いて安全に提供できる環境を整備することで、豊かな食育や保護者のお弁当作りの負担軽減にも寄与しました。五感記憶と強く結びついています。手づくりおやつ「いい匂い」とみんなと食べたおいしい思い出は、きっと温かな気持ちとともに子どもたちの記憶に刻まれ、将来にわたってそっと励まし続けることと思います。 おとな都合ではなく、どんな時も子どもに寄り添い受容する姿勢で育成支援にあたってきました。地道な記録と実践の振り返り、学び、鍛え、職員間で連携しながらチームとして高め合ってきた歴史を胸に、関係各位への感謝を忘れず、今後も、謙虚に誠実に施策の充実に努めてまいります。					
	(所管評価) 子どもたちの主体性を尊重し、安全確保を最優先に、質の高い放課後児童クラブ運営に尽力されている姿勢と、職員の資質向上への継続的な取り組みは評価しております。「子どもの権利」に関する学習やCAPワークショップの受講は、子どもへの深い理解と実践的な対応力を育む上で不可欠であり、倫理規範ハンドブックの導入やセルフチェックシートの活用は、保育の質の向上に十分寄与しているとも認識いたしました。 また、小学校や関係機関との連携も密にしており、地域全体で子どもたちを見守る体制を構築されている点も評価いたします。外国籍世帯への対応においても、積極的にコミュニケーションを図り、多様性を尊重する姿勢は模範的と捉えております。 共働き世代の増加や働き方改革などの社会状況の変化により利用児童数が増加している中においても、児童の安心・安全をはじめ、丁寧な保護者対応、指定管理業務仕様書に基づいた適切な放課後児童健全育成事業を推進している点を含め、良好な事業運営ができているものと評価いたしました。					

※評価区分

①	個別評価	AA(優良)＝協定書、仕様書等を遵守し、その水準よりも優れた管理運営内容である。 A(良好)＝協定書、仕様書等を遵守し、その水準に沿った管理運営内容である。 B(問題含)＝協定書、仕様書等を遵守しているが、管理運営内容の一部に問題がある。 C(要改善)＝協定書、仕様書等を遵守しておらず、改善が必要な管理運営内容である。
②	総合評価	AA(優良)＝個別評価がすべてA以上であり、かつAAが過半数である。 A(良好)＝個別評価がすべてA以上である。(上記以外) B(問題含)＝個別評価がすべてB以上であり、Bの割合が1割未満である。 C(要改善)＝上記以外